

東北応援チャリティ公演 大地のうた⑦～原点～

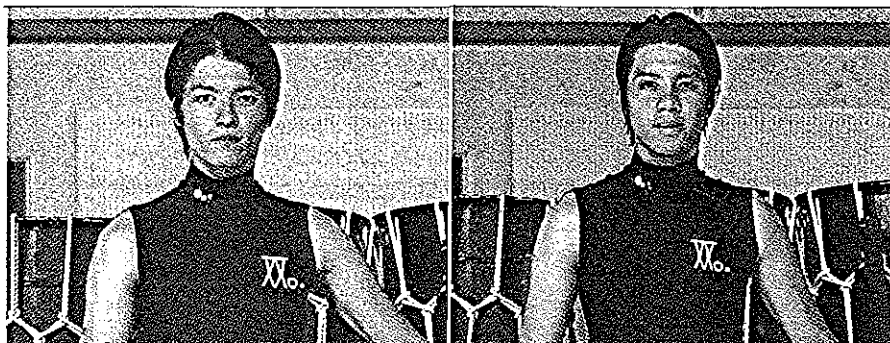
3月5日(日) 14時～

会場●3階多目的ホール

入場料●1500円(前売当日共)

出演●Atoa.(アトア 高橋勲雄[ときお]、高橋亮[あきら]和太鼓、仙台、元鼓童)、阿部一成(篠笛、愛媛、元鼓童)、竹繁文章(津軽三味線、吉野川市)、高橋宏徳(剣舞)、桧獅子舞保存会(獅子舞、鳴門市)、鴨島鳳翔太鼓(和太鼓、吉野川市)、亀本美砂(インド古典舞踊)、武田仁美(ソプラノ)、小川典子(ソプラノ)、川真田加穂里(ソプラノ)、粟田美佐(ピアノ)

主催●東北応援・プロジェクトあい(村澤☎090・1171・7353)



第23回AJET徳島英語ミュージカル 剣山の上のラプンツェル

3月11日(土) 15時～(開場14時半)

会場●3階多目的ホール 入場無料

問合せ●徳島県国際交流協会(☎088・656・3303)

大阪音楽大学同窓会《幸楽会》 徳島県支部第18回演奏会

3月26日(日) 14時～

会場●3階多目的ホール

入場料●1000円(前売当日共)

出演●藤井哉哉、上原慎太郎、川添衣利、饗庭圭輔、桑原登志子、高橋沙衣、大田黒翔子、伊賀美樹子、梅田春希、輝尾ひとみ、毛利心馨

演奏予定曲目●「月の光」(ドビュッシー)、「うたえてのひら」(越部信義)、「涼流」(水川寿也)ほか

主催●大阪音大同窓会《幸楽会》徳島県支部(小島☎090・5274・4543)

3.11映画祭in徳島2017★佐藤太監督作品 「太陽の蓋(ふた)」上映会

3月11日(土) 2回上映 ①15時～ ②18時半～

会場●2階ハイビジョン・シアター 無料

作品●「太陽の蓋」(2016、日本、130分) 出演=北村有起哉、三田村邦彦、袴田吉彦、中村ゆりほか 監督=佐藤太 脚本=長谷川隆 音楽=ミッキー吉野

主催●3.11映画祭in徳島実行委員会事務局(チャーリーブラウン・神農☎088・679・9776)

後援●復興庁ほか

■昨年引き続き、北島町立図書館・創世ホールは3.11映画祭開催！ ■東日本大震災をはじめ各地で続く大惨事と被災地への連帯支援の精神を、私たちは胸に刻んでいます ■今年は「シン・ゴジラ」とも比較され、話題沸騰のポリティカルドラマ「太陽の蓋(ふた)」を東京会場と同時上映いたします ■東日本大震災発生から福島原発事故が起きた5日間。原発事故に迫る新聞記者をキーパーソンに官邸内、さらに東京や福島で暮らす市井(しせい)の人々の姿を対比させて描く ■菅内閣の政治家はすべて実名で登場。原発事故の経過や対応を事実に沿って丹念に追う ■今だからこそ伝えられる「あの日」を、センセーショナルにあぶり出す ■多数ご参集ください！



3.11「史上最悪の危機」を迎え、官邸内で何が起きていたのか。

笑福亭たま・旭堂南湖二人会⑩

3月19日(日) 14時～

会場●2階ハイビジョン・シアター

入場料●前売/大学生・一般1500円、小・中・高校生1000円(当日各500円増)

出演●笑福亭たま(上方落語家)、旭堂南湖(上方講談師)

演目●落語「らくだ」ほか1席(お楽しみ)、講談「難波戦記」ほか1席(お楽しみ)

主催●たま・南湖二人会実行委員会(☎088・698・1100)

■毎度おなじみ上方演芸界を背負う2人のプリンス笑福亭たまと旭堂南湖(きょくどう・なんご)、ついに迎える10回目の二人会。今回も超満員必至！ 健康増進・抱腹絶倒！ お見逃しなく。

■【講談「難波戦記」とは】◎15万の兵を率いる徳川家康を死の直前まで追い詰めた一人の男◎その名は上田の城主・真田左衛門尉海野幸村(さなださえもんのすけうんのゆきむら)！ ◎江戸時代より語り継がれるもう一つの結末——◎かつて徳川幕府に禁じられたある書物がひそかな人気を集めておりました◎それは戦国最後の大战(おおいくさ)で真田幸村が恐れ多くも大御所・徳川家康公に立ち向かったお話◎あの真田丸の戦いの裏でいったい何が起きていたのでしょうか◎禁じられた書物の禁じられたお話◎さあ、江戸時代より語り継がれる講談「難波戦記」をお聞かせいたしましょう。(旭堂南湖主演映画「講談難波戦記」予告編から謹んで抜粋引用)



文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

四方田犬彦さん講演会「白土三平の作品世界」盛会でした●小西昌幸

■2月12日(日)に開催した四方田犬彦(よもたいぬひこ)さん講演会「白土三平の作品世界～漫画家生活60年を祝福する」は、約200人の来場者があり盛会となりました。内容も大変すばらしく、充実した催しでした。ロビーでの本の売れ行きも良く『白土三平論』が31冊、『日本の漫画への感謝』が11冊、『アックス』109号が12冊と言う堂々たる販売実績でした。今号の「文化ジャーナル」では、講演会前後の逸話、催し当日の講師紹介原稿の採録、来場者アンケート(抜粋)などを紹介して、四方田さん講演会を振り返りたいと思います。

■創世ホールの催しの広報展開では、徳島市のコミュニティFM局《FMびざん》さんに殆ど毎回お世話になっています。今回は、ご住職お二人がメインのディスクジョッキーを務めておられる「3Bの鉛筆」で宣伝させていただきました(毎週土曜夜8時～9時放送)。その二人のご住職とは、小松島市地蔵寺の服部宏昭さんと徳島市般若院の宮崎信也さん。伊福部昭先生卒寿記念祭や、杉浦康平先生講演会のときにも「3Bの鉛筆」にはお世話になっています。ありがたいことです。収録は2月3日(金)夜、放送は翌日でした。番組で流す音楽は小西が用意させていただきました。次の4曲です。①遠藤ミチロウ「浪江(なみえ)」、②デイヴィッド・マンロウ「ルネサンス舞曲集」から「ロンド」、③「シン・ゴジラ」サウンドトラックから「上陸」(鷲巣詩郎)、④ニール・ヤング「ライク・ア・ハリケーン」。

■四方田さんは、前日夕方6時着の飛行機で徳島入りされました。宿舎へのチェックイン手続きのために徳島市に向かう車中、四方田さんが台湾映画「湾生回家(わんせいいかい)」のお話をいきなりされたので驚きました。私は、この映画に北島町の富永勝さんが登場するので、徳島での上映(ユーフォーテーブルシネマ)を見ていたのです(富永さんは元北島町立図書館長)。「あの映画は立派な作品で、感動しました」というと、同作品のプロデューサー(台湾の人)が四方田さんの教え子なんだということでした。日本語もできて大変優秀な方ようです。それから、明治時代にトルコの船(エルトゥールル号)が和歌山沖で沈没しその乗組員の救助のために現地・和歌山の人たちが尽力した映画(「海難1890」)の話になりました。四方田さんは、海外の大学に勤務されたことも多々あり、そのほか国際映画祭に頻りに招待されて、様々な文化圏で講演したりパネラーとしてトークされている人です。トルコにも映画祭の関係で行かれた経験があるのです。トルコの人たちは日本人にとっても恩義を感じていて親切なんだとおっしゃっていました。

■そうこうするうちに駅前のホテルに到着し、チェックイン手続きをしていただきました。この日は、夜7時半から四方田先生を囲む会を近くのお店で開催しました(参加者は全10名)。

■翌日は、9時にホテルにお迎えにゆき、徳島繊維卸団地(徳島市問屋町)で開かれている「徳島びっくり日曜日」にお連れしました。昨年11月に保土ヶ谷駅の喫茶店で打ち合わせた時、四方田さんは様々な場所に行った際は、訪問地の市場をいつも見るようにしているんだとおっしゃったので、「それでは私が一番面白いと常日頃考えている日曜日にご案内しましょう」と約束してあったのです。私見では、高知の整然とした市よりも、ア

ジアの喧騒を体現したような徳島のこの市が私には面白く思われるのです。■1時間後の集合場所を決めて、私たちは自由行動に移行しました。私は中古レコードを探求、ザ・フォーク・クルセダースの7インチ・シングル「帰って来たヨッパライ」を発掘し、四方田さんは野菜や果物をたくさんゲットされたようでした。

■創世ホール講演会はこれまで殆ど毎回キューテレビ(北島町のケーブルテレビ局)が録画し、全編放映してくれていました。しかし今回は、ニュース枠での放映ということで、昨年(地引雄一さん)や1昨年(山田太一さん)のようなこと(全編記録)にはならず、映像記録をどう残すかが課題になりました。思案の結果、海野十三の会や、文化の森の記録のお仕事をされてきた徳島市の戸出英輝さん(元高校教師)に相談し、無理を言って御出動いただきました。戸出さんに深く感謝します。多くの人に支えられて催しを続けています。

■以下に講師紹介の原稿を再録掲載します。終わりの部分は前号「文化ジャーナル」の末尾部分と殆ど同じです。

講師紹介◎小西昌幸

■講師である四方田犬彦さんは、例えば濛濛龍彦さんや種村季弘さんや山口昌男さんなど、日本語の優れた文章をお書きになった偉大な文筆家・批評家の系譜に、間違いなく連なる方です。その簡単な経歴については、お手元のプログラムに書いておりますのでご覧ください。

■ここでは四方田さんと企画者の私の間に、三十数年前から不思議な縁があったというエピソードを特別にご紹介させていただきたいと思えます。

■私は、1981年6月に『板坂剛の世界』という本を1000部自主出版しました。この本の広告は『映画芸術』や『噂の真相』などの雑誌に板坂さんが広告を打ってくださって、すぐ売れました。四方田さんは、この本を郵送注文で直接ご予約くださったのでした。ところが発行人が予定よりも一月(ひとつき)ほど遅れました。その際、四方田さんからハガキを頂戴しまして、「自分は、『板坂剛の世界』を予約した者だ。だが本がまだ届かない。自分の知り合いには極真空手の徳島支部の人間もいるので、注意されたし」というような内容でした。その後、本が無事完成しまして、すぐご予約いただいた方々にお送りいたしました。そうしたら、また四方田さんからハガキをいただきました。その内容は、「本を拝受した。この本は、後の世で赤瀬川原平の『櫻園報』と並び、70年代の奇書と呼ばれるであろう」というもので、私は物凄く感激し、力強い勇気をいただいたことを覚えております。そんな私が36年の歳月を経て、本日、四方田さんの講演会をこの北島町で企画開催できたわけでありまして、ただただ感無量であり、不思議な縁を感じる次第であります。

■講師紹介を閉じるにあたり、ご来場の皆さんに、メッセージをお送りしたいと思えます。本日の四方田さんの講演会「白土三平の作品世界」が、あと何年かしたら伝説の催しとなることは確実であります。それは今日(こんにち)、種村季弘さんや九條今日子さんや柴野拓美さんや竹内博さんの北島町創世ホールでの講演会がすでに伝説になっているように。実は四方田さんは、数年前に脳腫瘍の手術をされています。そして企画者の私は、2016年3月末に定年退職し、現在は嘱託職員として週4日勤務するという立場の人間です。いま日本で、この時期、ここ北島町立図書館・創世ホールでしか、この催しはできなかつたのであります。心ある皆さん、将来この講演会を思い出すとき、ぜひ『忍者武芸帳』の主人公の最後のメッセージもあわせて想起して欲しいと願います。その言葉とは、すなわち「われらは遠くから来た。そして遠くまで行くのだ」。それでは四方田さん、ご登壇ください。(2017年02月12日)

■以下に、回収できたアンケート回答の抜粋を順不同で、つつしんで掲載させていただきます。氏名等はアルファベット表記(A、B、C……)にし、年齢、性別、居住地をカッコ書きしました。無記名の方は、無記名としてあります。

講演会の感想◎アンケートから

- マンガのマニアックな話をするのかと思ったら、神話や歴史の壮大な話になって知的好奇心はMAXに満たされました。【無記名】
- 歴史や神話の世界をわかりやすく解説していただき、とても貴重なお話でした。【A、54歳、男性、北島町】
- たいへん面白く聞かせていただきました。【B、64歳、男性、藍住町】
- 白土三平の文学論として面白く拝聴しました。『カムイ伝』をよみなおしてみたくりました。ありがとうございました。【無記名】
- 1960年代の直線的歴史観が1970年代の円環的歴史観に展開していった白土三平の作風の変化は自分でも気付いていなかったポイントだったので、とても勉強になりました。あと、お話のイントロに地元のアワ国ネタを挿入して下さったのは、チョット感激でしたね!【C、40歳、男性、北島町】
- 神話に対して新鮮な感想を持ちました。表題から白土三平史かと思いましたが、四方田さんの世界観が味わえて良かったです。【D、56歳、男性、北島町】
- 子供のころからの白土ファンで、四方田氏の『白土三平論』も読ませていただいていたので、面白く講演を聞かせていただきました。【無記名】
- 四方田氏のレベルの高い講演に感無量です。入場無料は、もったいないですね。早速、『忍者武芸帳』を再読しようと思えます。『鬼太郎夜話』も。すばらしい講演でした。大変お疲れ様でした。【E、57歳、男性、阿波市】
- 小西様のおかげで、他県に居住していたら聞かせてもらえない貴重な素晴らしいお話を聞くことができました。感謝。誘って同行した友人も大変喜んでいました。すべて小西様のおかげです。【F、81歳、男性、徳島市】
- 「創世ホール通信」の裏面の小西さんの文章を読ませていただき、すごい人が北島にいらっしやるんだと思いました。講師の先生をお招きして講演会を催すことはどこもされていますが、一つの講演会を実施するのにこれだけの思いをもって開催されることを知り、今日の四方田さんのお話にますます興味が出てきました。四方田さんのご講演を通して、小西さんが私たちのために企画して下さった思いも受け止めたいと思っています。「神話」というものの思想を白土さんの作品を例に挙げて話して下さり、とても興味深いものでした。【G、64歳、女性、吉野川市】
- すばらしかった。徳島でこんなことができるなんて信じられないわ。神山の神社の石だんは素敵でしょ。また行こうと思いました。パゾリーニの話もききたかった。【H、女性、徳島市】
- 時代とともに姿を変える白土先生の柔軟さを素晴らしいと思いました。80年代、再び歴史に戻ったのはなぜかをお聞きしたかったです。第2回講演をぜひ!! 神話の世界、白土先生の世界、四方田先生の世界にこれからも注目させていただきます。ありがとうございました。【I、女性、徳島市】
- 徳島市に住まいしております。いつもいい企画をされるので楽しみにしております。四方田先生ありがとうございました。【J、71歳、男性、徳島市】
- 『カムイ伝』は兄が持っていて、読んでいました。知識が増える良作マンガでした。ぜひ行こうと思いました。来て良かったです。素晴らしい講演でした。繰り返しながら生きる人間として迷った時に神話に頼りたいと思います。大アワ神社行ってみようと思えます。ピンク・フロイド「炎」がかかっていた良かったです。【K、50代、女性、徳島市】
- 「神話」というコンセプトを色々な角度から聞くことができ、これからの神話に関する書物を読むことが楽しみです。ありがとうございました。【L、47歳、男性、大阪市】
- 徳島ではなかなか聞くことのできない文化のお話に感銘を受けました。いつもながらしっかりした準備に感服いたしました。【M、53歳、男性、藍住町】
- 映画の話も聞きたかったです。オオゲツヒメのことは、初めて知りましたので【神社に】行ってみたいと思いました。【N、男性、高知市】
- 1960年代と1970年、おおむね同世代としてその間のくびきを感じることができました。大変参考になりました。【O、58歳、男性、神戸市】